

初めてのホームステイ

児玉 聖奈

最初の内定式から 8 回のオリエンテーションを終えて不安とドキドキを抱えながら出発の朝を迎えました。初めてのホームステイで、少し緊張しました。しかしグアムでたくさん友達を作り、日本の文化を教えてくれると決めて出発しました。行くまでにメールや電話でのやりとりで早く会いたい、行きたいと思う気持ちがふくらみました。私のカウンターパートの名前は Jaylene です。私が空港についた時には、妹の Jenna とお母さんと 3 人で出迎えてくれました。その時に不安や緊張はやわらぎ、これからの期待や喜びの感情が大きくなりました。しかし始めのうちは緊張してあまりなじみませんでした。でも毎日過ごすにつれてだんだんと本当の家族のような生活をする事ができうれしかったです。Jaylene の家の料理担当はお父さんでした。私はお父さんの手料理を 2 回食べる事が出来ました。とてもおいしかったです。お母さんが働いている銀行に見学に行きました。高いビルから見える景色は最高にきれいでした。家の中では Jaylene や Jenna と日本から持ってきたお手玉や折り紙で遊びました。特にお手玉は 2 人ともすごく喜んでくれました。最後には日本語の歌も覚えてくれて嬉しかったです。

St. Francis School では Jaylene がほかのグアム生よりも 1 つ年下でした。そのため、私だけ別のクラスで授業を受けると知り不安になりました。でもクラスのみん中は私を歓迎してくれて、たくさんの質問をしてくれました。私が質問と全く違う答えを言ってしまうと笑ってくれて助かりました。Jaylene のクラスで流行っているダンスも教えてもらいました。覚えたてのダンスをクラスのみん中の前で踊り、少し緊張しましたが笑顔で盛り上げ、一緒におどってくれてすごく楽しかったです。そして、一番驚いたことは私の持っていたシャーペンや消しゴムがとても好評で日本の文具はすごいと言っていたことです。また、ランチタイム以外にスナックタイムがありお菓子を食ったり、購買に買いに行く時間があります。私もホットドッグを買って Jaylene と彼女の友達と一緒に食べました。日本の学校と違う面もたくさんあり、とてもいい体験ができました。

やっとグアムの環境に慣れてきたころに出発の日がやってきました。日がたつにつれて楽しかった時間は帰国したくない思いに変わりました。空港では、ほかのホストと 1 人ずつと写真を撮りました。その写真は大切な宝物になりました。そして、Jaylene と最後にハグをしたときお互い我慢していた涙があふれました。

私は今回のホームステイを振り返って言葉が通じなかったとき、笑顔が大切だと改めて思いました。これは日本であってもグアムであっても同じことだと思います。しかし、英語力がもっと高かったら今回よりさらに楽しむことが出来たと思います。たくさん勉強をしてまたグアムにいきたいです！！



Jaylene と妹の Jenna と